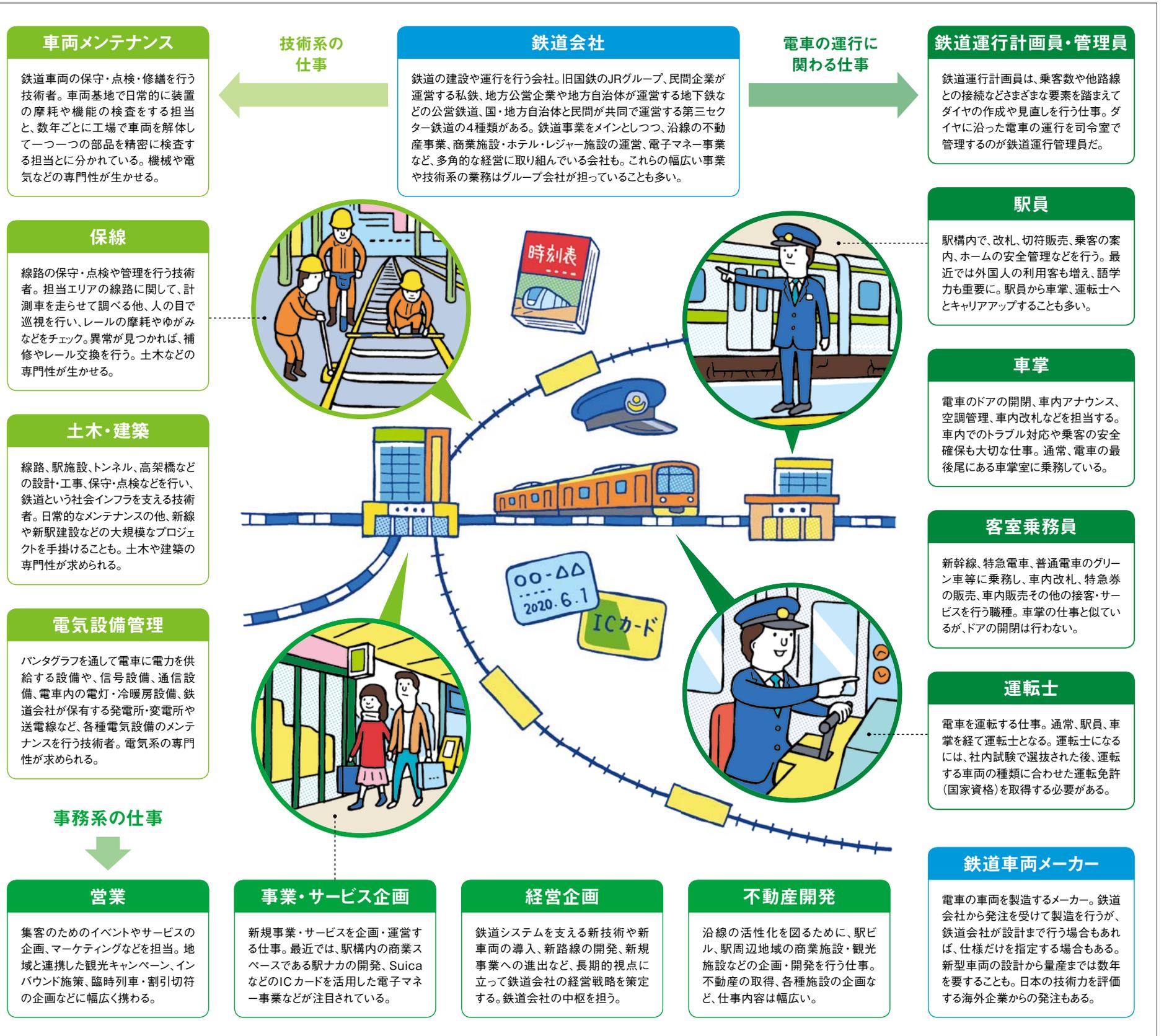


鉄道に関する仕事

取材・文/伊藤敬太郎 イラスト/桔川伸

人々の生活を支えるインフラである 鉄道事業は社会貢献度もやりがいも大!

鉄道という重要な交通インフラを支える仕事は、社会に対する貢献度もやりがいも大きく、就職先としての人気も高い。子どもの頃から電車の運転士や駅員に憧れていた高校生も少なくないだろう。では鉄道業界にはどのような仕事があるのか、それぞれどのような役割を果たしているのかを改めて整理してみよう。



最新の業界事情

今後は鉄道システムの海外輸出にも期待

日本の鉄道は今も全国で建設が進められている。最近では、2019年11月に相鉄・JR直通線が開業し、話題となった。その他にも2022年開業予定の北陸新幹線(金沢〜敦賀)、九州新幹線長崎ルート(武雄温泉〜長崎)など数多くの計画が進行中。2027年には中央リニア新幹線(品川〜名古屋)も開業予定だ。

また、安全性や信頼性などに優れた日本の鉄道システムを海外に輸出する動きも国家レベルで進行中。鉄道会社や車両メーカーなどの海外展開も今後拡大していくと見られている。

レールの摩耗やゆがみを 職人技で検査し補修する

保線は鉄道事業の安全を支える責任の重い仕事だ。富永さんは保線のなかでも、法令に基づいて検査などを行う検査担当として働いている。線路に変位が生じていないか、摩耗してごぼごぼになっていないか、ゆがみが生じていないかなどを検査し、不具合が発生しないように補修するのがその役割だ。

「検測車を走らせて異常が見つかった場所に私たちが行き、標準ゲージという測定器具やコマと糸といった手で測定する道具を使って、実際に目で見て検査します」

検査は4〜5人でチームを組み、列車が運行している日中に行う。列車見張員を配置し、列車が通過する時間の3〜5分に正確かつスピーディに作業を行わなければならない。チームワークも大切になる。

補修は終電後の深夜に行うが、補修工事の工程管理も業務だ。「ジャッキなどの道具を使ってレールを持ち上げたり、砕石を締め固めて補強したりします。面白いのはレール交換ですね。摩耗やゆがみを発見した場合などは部分的に新しい

この職業に就くには
鉄道会社の技術系の職種は、以前は高卒者の採用が多かったが、最近は専門卒、大卒の採用も増えている。いずれにしても、土木、建築をはじめとする工学系の基礎知識があると有利だ。入社時には、鉄道に関する専門知識はなくてもOK。高校時代には、さまざまな活動を通して責任感やチームワークを養っておくと、就職後に生かすことができる。

富永さんの「一日」
日勤(8時30分〜17時10分)が基本だが夜勤(0時〜5時)がある日もある。日勤はチームで1日3〜4カ所の現場を回る。夜勤がある日は、日勤終業後、保線区の事務所まで仮眠を取り、深夜に現場へ向かう。

レールに交換するのですが、計測通りにうまくつながるかドキドキする分、やりがいを感じます」

経験を重ねると、移動中に乗っている列車の振動音でレールの異常を感じ取れるようになっていく。「直したところも列車に乗っているとわかるんです。目で見て、音で聞いて成果を実感できるのがこの仕事の魅力の一つですね」

職種 PICK UP!!

保線

東急電鉄株式会社
鉄道事業本部 工務部 保線課
梶が谷保線区
富永圭祐さん(30歳)

鹿児島県立薩南工業高校土木課卒業。当時、地元では求人が少なかったため、上京して就職することを決め、高校で学んだ土木の知識・技術が生かせる東急電鉄に入社。工務部保線課梶が谷保線区(神奈川県川崎市)に配属される。現在入社11年目。